

## 力で押すトランプ大統領とハイテクAI

### ■ トランプ大統領就任

就任早々トランプ砲の炸裂です。カナダ、メキシコ、中国に対して追加関税を発動しました。メキシコのクラウディア大統領（写真右）の対応は素早く、すかさず1ヶ月の延長を交渉しました。メキシコは対米自動車輸出の拠点であり、その影響は大きいと予想されます。トランプ大統領らしく、女性には優しい対応ですね。



しかし、この増税の負担を最終的に負うのはアメリカ国民です。輸入コストの増加分は物価に転嫁され、企業が一部を吸収するにしても、増税率が高いため完全に回避することはできません。FRB（米連邦準備制度理事会）は利下げを検討していますが、関税による物価上昇はインフレを加速させる可能性があります。そのため、パウエル議長も空気を読んだのか、FOMC（連邦公開市場委員会）では金利据え置きを決定しました。これは、政治的な要素が強い判断と言えるでしょう。日本銀行の植田総裁もそれに倣い、利上げを見送りました。

金融市場では円高が進行し、株価は下落しました。これは、風邪をひいて咳や熱が出る程度で「普通の反応」と言えます。それ以前に、AI関連の「DeepSeekショック」があったばかりだったため、ハイテク株はすでに下落しており、今回の影響は限定的でした。アメリカ経済自体には大きな変化はなく、この下落も一時的なものとなる可能性が高いでしょう。

政治と株価が連動しない背景として、**アメリカの生産性向上**が注目されています。少ないマンパワーでより多くの作業ができるようになった結果、賃金が上昇していると言われています。給料が上がれば物価上昇にも対応できます。しかし、その一方で雇用が失われ、失業率が上昇する

懸念もあります。しかし現在の失業率は4.1%と完全雇用に近い状態ですが、低賃金の仕事には不法移民が多く従事していることも一因とされています。トランプ砲は不法移民の強制送還でも火を吹き、コロンビアが強制送還者の受け入れを拒否すると、トランプ大統領は関税を25%に引き上げると発表しました。まさに「力づく」の対応です。

トランプ大統領が署名した多くの大統領令の一部は、憲法違反として裁判所に差し止められています。それでも十分なインパクトを与えています。「下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる」という例えのように、何かしらの成果を上げているのです。バイデン前大統領の「見て見ぬふり」とは正反対であり、各国は次に何をするのか分からず、身構えています。

大統領就任式に招待された習近平国家主席は、さすがに出席はしませんでした。トランプ政権の動向を気にしているようです。一方、ウクライナ侵攻で大失敗したプーチン大統領は、トランプ大統領の介入を心待ちにしているでしょう。しかし、トランプ大統領をもってしても、戦争を「1日で終わらせる」ことはできず、そうこうしているうちに、頼みの北朝鮮兵も壊滅してしまいました。トランプ大統領は、ウクライナ支援には否定的ですが、見殺しにすることもできない状況です。最良の解決策は停戦しかありません。

日本の石破首相も、年末から何度も訪米の機会を伺っているようですが、トランプ大統領はソフトバンクの孫正義会長とは笑顔で握手する一方で、石破首相は「お呼びでない」様子です。やはり、石破首相では影が薄すぎるのでしょうか？

イスラエルのネタニヤフ首相は、残忍な戦法を世界中から非難されていましたが、最良のタイミングで停戦を受け入れました。彼は少数政党で辛うじて首相の座を維持しており、潮目を読むのが非常に上手なようです。石破首相とは大きな違いです。

戦々恐々としているのは欧州も同じです。NATO加盟国には、防衛予算をGDP比2%から5%へ引き上げるようトランプ大統領が求められています。トランプ大統領は、「よその国の防衛費なのに、なぜアメリカが一番大きな負担をするのか」と主張しており、これはもっともな意見です。しかし、欧州各国の経済状況は芳しくなく、特にドイツの経済は深刻です。

ドイツ経済が悪化した主な原因の1つは、ロシアからの原油・天然ガスの供給が途絶えたことです。製造コストは、アメリカ・テキサスと比べて10倍も高いとされています。もう1つの要因は中国です。中国経済の低迷と、中国のEV（電気自動車）政策により、ドイツ車の売上が急減しました。昨年度、アウディはドイツ国内で年間1億ユーロ（約160億円）以上の地方税を納めていましたが、これが1年以上前から途絶えているそうです。

## ■ ポップコーン課税

さて、ここで少し柔らかい話題

**インド政府のポップコーン課税**についてです。日本でもお菓子には消費税がかかりますが、インドでは課税ルールがさらに複雑です。

例えば、

- ブランド名の有無（記載があるかどうか）
- 包装の有無（袋入りか否か）
- 塩味が甘いか



などによって税率が変わります。塩味のポップコーンなら、どんな調味料がかかっても5%（包装なしの場合）。包装されてラベルが貼られると、

税率は12%に跳ね上がります。さらにカラメルなどの甘い味付けがあると、18%まで増税されます。また、映画館でポップコーンとチケットがセット販売される場合、税率は12%または18%となるそうです。

ちなみに、インドでは「ココナッツオイルが食用か美容製品か」で15年間も議論され、最終的に最高裁が判断しました。食用なら5%、美容製品なら2桁の税率になるそうです。

ここ数年、インド株への投資が盛んですが、こうした税制を見ても、本格的な成長軌道に乗るにはまだ時間がかかりそうです。昨年9月からインド株は下落が続いており、長期投資には良いタイミングかもしれません。

## ■ AIエージェントのレポート

先月に引き続きAIエージェント（AI Agent）についてのレポートです。

エージェント（Agent）とは「代理人」という意味です。AIを自分の代理人として機能させようとするのが、AIエージェントです。

ChatGPTを使う場合、目的に応じて「**プロンプト**」と呼ばれる指示を入力する必要があります。ん？「プロンプト」？また新しい言葉が出てきましたね。IT業界では、医者と同じように独自の専門用語を使いたがるものです。「プロンプト」には「促す」という意味があり、妥当な名称ではありますが、「検索する」「ググる」といった表現の方が馴染みやすいかもしれません。ChatGPTのChat=おしゃべりという意味の通り、AIであるGPTと対話形式で検索を進めます。

例えば、先月と同じように

「草津温泉へ2泊3日の旅行へ行きたいけど、ベストプランを教えてください」

というプロンプトを入力するとします。

ここに実際の回答を掲載したいところですが、非常に長いため割愛しますのでご自身で試してみてください。ChatGPTは、交通手段、観光名所、お店を含めた食事の案内、宿泊施設の候補、お土産、そして費用を含めたモデルプランを提示してくれます。

ここでさらに

「食事に重点をおいたプランでは？」

と入力すると、より詳細なグルメツアーが提示されます。ですから検索エンジンのGoogleが、このような高度な検索能力に危機感を抱き、ChatGPTの発表後に社内で「レッドシグナル（緊急警報）」を発したのも納得できます。従来を検索を超えた拡張機能が使えるため、非常に便利なのです。外国語の翻訳や長文の要約も得意分野です。

ChatGPTは汎用的なAIですが、特定の分野に特化したAIも数多く登場しています。例えば、動画編集、音楽制作、プログラミング支援など、それぞれの用途に特化したAIが次々と開発されています。

ここで注目されるのは、プロンプトの工夫がAIの回答を左右することです。

AIを活用する際、プロンプトの使い方次第で、引き出せる回答が大きく異なります。AIは膨大な情報の中から最適な回答を導き出しますが、そのプロセスは以下のように異なります。

1. 平均的な情報を抽出する場合
2. 専門的な情報をもとに回答を導く場合

例えば、

「あなたはベテランのツアープランナーです。最高のプランを提示してください。」

とAIを持ち上げるようなプロンプトを入力すると、よりハイレベルな回答をしてくれます。

これは不思議な現象ですが、AIに対して要求を少しずつ変えて入力すると、次第に高度な回答をするようになるのです。

- ・「初心者にも分かりやすく説明して」
- ・「もう少し専門的に詳しく」

といったアレンジを加えることで、求める回答の精度を高めることができます。面白いですからぜひ試してください。

## AIエージェントの登場

ここまでAIの使い方を見てきましたが、プロンプトの入力方法や順番が回答に影響することが分かりました。しかし、一般のユーザーが毎回適切なプロンプトを考え、入力するのは煩雑です。そこで登場するのが「AIエージェント」です。

AIエージェントは、いわば「秘書」のような存在です。まだ使いこなすのが難しい面もありますが、すでにコンサルタントがプレゼンテーション資料を作成する場面などで活躍しています。

例えば、経営コンサルタントはさまざまな情報を集め、シナリオを考え、図表を交えた資料を作成します。現在、一部のAIエージェントではプレゼン資料を自動生成する機能が実装されています。ここでAIエージェントを活用すれば、人間が何時間もかけて作っていたプレゼン資料がわずか数分で完成します。そのため、資料の質も向上することが期待されています。

特に、広告代理店の電通や博報堂では、プレゼン資料が営業ツールとして重要視されていますが、長時間労働でブラック企業として有名です。こうした業界の働き方にも大きな変革をもたらすでしょう。すでに、ボストン・コンサルティング・グループ（BCG）では、プレゼン資料作成に特化した独自のAIエージェントを開発しているそうです。

## AIエージェントの未来

AIエージェントはまだ一般的ではありませんが、今後は汎用型と専門型の両方が登場すると予測されています。

例えば、医療の分野では、最終的な判断を下すのは人間の医師であっても、初診の段階では「AIドクター」が活躍すれば、病院の混雑を大幅に緩和できるでしょう。また、機械のメンテナンスでも、センサーを通じてAIが状況を分析し、修理の必要性を判断すれば、人間の手間を省き、正確性が向上します。将来的には、AIとサイボーグ（機械と融合した人間）が組み合わさり、人間に近い作業をこなす時代が来るかもしれません。

まずは、旅行や出張関連のAIエージェントが実用化されるのが現実的でしょう。

例えば、

1. 目的地、日程、予算を入力するだけで、いくつかの旅行プランを提示
2. 選択したプランに基づき、宿泊・交通の予約を自動手配

といった機能を持つAIエージェントが登場すれば、非常に便利になります。

こうしたAIエージェントは、数年以内に実用化される可能性が高いでしょう。操作が容易であれば爆発的にヒットするはずです。ここから新しい投資対象企業がうまれる可能性もあります。

Wenk Jordan & Company